

庄原市高野町岡大内字岡所在

おかひがし  
**岡東第1～6号古墳・岡遺跡**

遺跡見学会資料



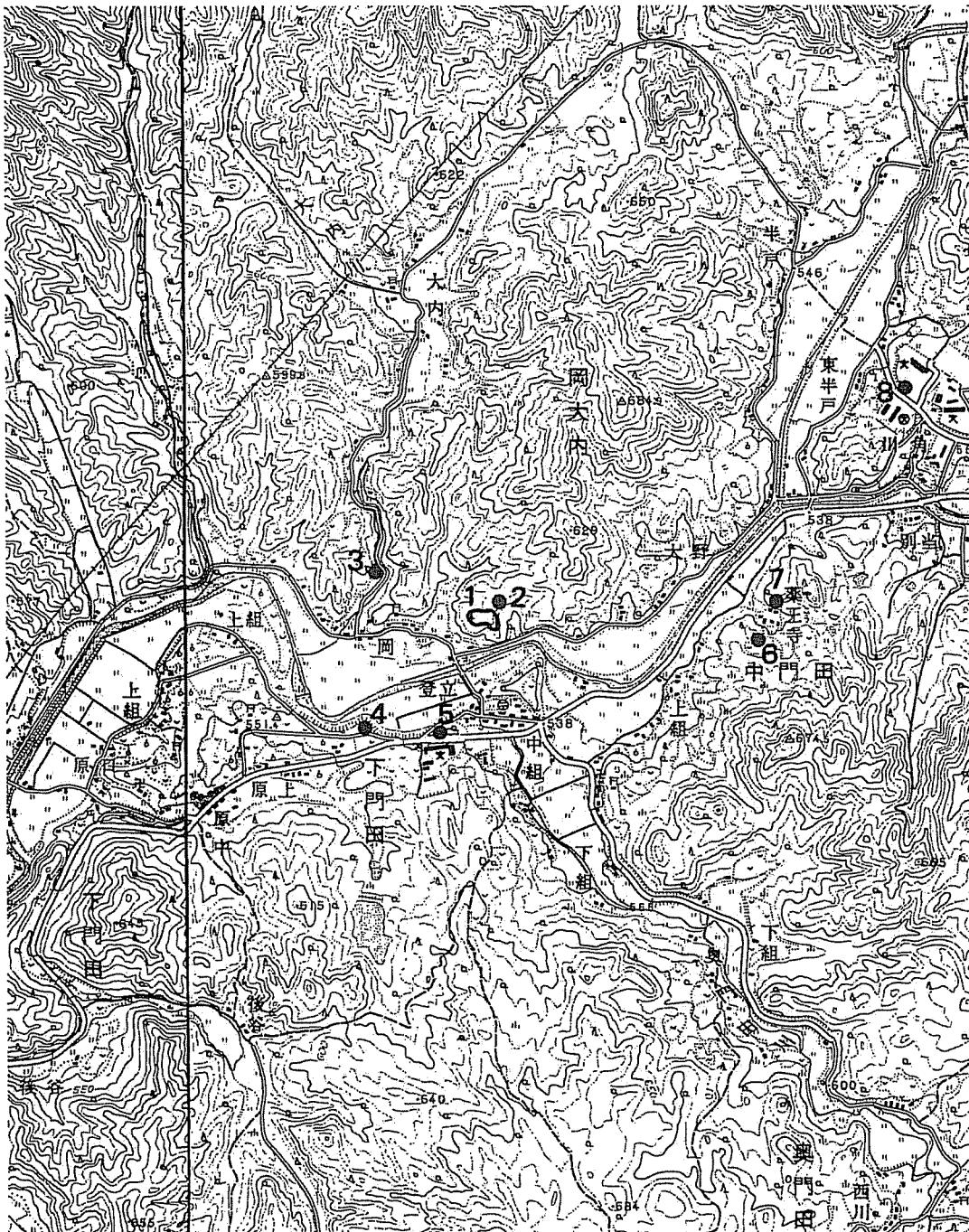
平成20（2008）年8月9日（土）10:30～

財団法人 広島県教育事業団

庄原市教育委員会

## 1. はじめに

岡東古墳群は庄原市高野町岡大内字岡に所在する古墳群です。この度、中国横断自動車道尾道松江線建設事業に伴い、第1～6号古墳の調査と縄文時代の狩猟場と思われる岡遺跡の調査を5月から実施しております。



第1図 岡東第1～6号古墳・岡遺跡位置図 (1 : 25,000)

- 1 岡東古墳群 2 岡遺跡 3 岡古墳 4 只野原古墳
- 5 下高野山古墳 6 城山古墳 7 薬王寺第1号古墳 8 塚根山古墳

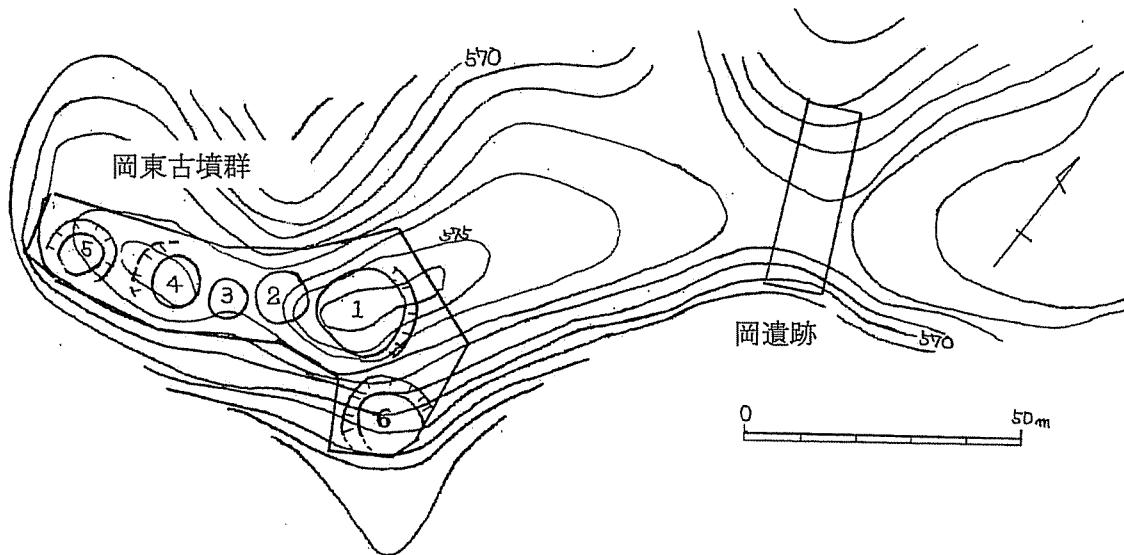
調査の進行に伴って古墳や遺跡の様子が明らかとなりましたので、庄原市教育委員会と共に、遺跡見学会を開催することとなりました。

## 2 位置と環境

岡東古墳群は標高 629m の山塊の南西に延びる尾根上に位置しており、第 1 号古墳が最高所にあり、第 2 ~ 5 号古墳は第 1 号古墳の西側の尾根上にほぼ等間隔に配されています。また、第 6 号古墳は第 1 号古墳の南側の尾根上にあります。この南側の尾根伝いには古墳らしい高まりが数基確認できます。第 1 号古墳を起点として西側と南側の両方の尾根上に古墳が分布しているようです。古墳群の標高は 576 ~ 570m で、周辺の水田とは 50m 程高い位置にあります。

本古墳群の周辺には岡古墳（消滅）、只野原古墳、下高野山古墳があり、また東に目を転じると城山古墳、薬王寺第 1 号古墳さらには塚根山古墳（消滅）などがあります。

これらの古墳の分布状況を大まかに見ると、神瀬川流域に形成された沖積地を見下ろすような小高い場所に占地しているようです。



第 2 図 岡東第 1 ~ 6 号古墳・岡遺跡周辺地形図（1 : 1000）

## 3 調査の概要

### （1）岡東第 1 ~ 6 号古墳

調査はもっとも大きな第 1 号古墳を中心として、古墳の造られた新しい順に進めました。各古墳間に残した畦から土層の重なり合いを検討し、古墳の周りを巡る周溝を掘りました。本来の古墳の姿を記録した後で、埋葬施設について調査しました。

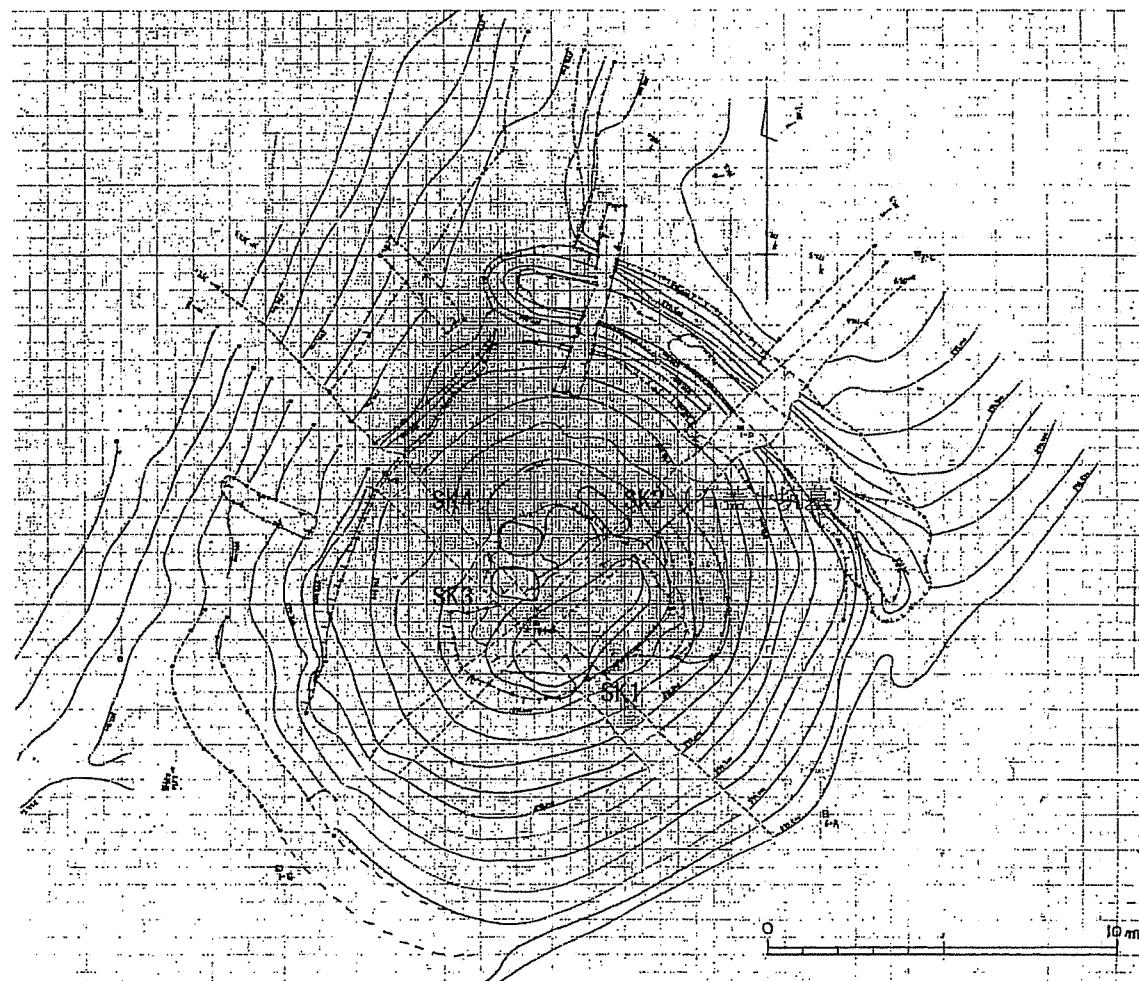
古墳を造った順番については、はっきりしない部分もありますが、重なり合う周溝の様子から第 1 号古墳 → 第 2 号古墳 → 第 3 号古墳 → 第 4 号古墳と判明しました。第 5 号

古墳と第6号古墳については隣の古墳と重なり合う場所がないので、はっきりとはしません。位置的に見れば第5号古墳は第4号古墳の後、また第6号古墳は第1号古墳の後となりそうです。

第1号古墳 一辺約16m高さ約3mのやや隅丸方形気味の方墳です。古墳の東側と西側に尾根を分断するような溝が巡っています。東側の溝は幅約2.7m、深さ1.5mあります。

古墳の中央部には長さ4m×幅1.7mの長方形で粘土を貼った土坑（SK1）があります。さらにこの土坑を壊して長さ1.7m×幅0.55mの石蓋土坑墓（SK2）、土坑（SK3、SK4）があります。

石蓋土坑墓は南端近くの一枚だけが川原石と思われる平板な円礫を使っており、全体の形状などからこの部分が頭位であろうと推定できます。



第3図 岡東第1号古墳墳丘測量図（1：200）

**第2号古墳** 第1号古墳の西側に位置する直径10m、高さ1.2mの円墳で、東側で第1号古墳の周溝とまた西側で第3号古墳の周溝と重なり合います。幅0.7m、深さ0.6m程の周溝が墳丘の北側を中心として2／3周ほどします。

古墳中央部から少し北側で長さ約2m×幅約0.7mの長方形の土坑があります。土坑の床と思われるところには小さな石を敷いています（礫床）。床面の少し上から鉄器が出土しています。また、周溝内から土師器壺が出土しています。

**第3号古墳** 第2号古墳の西側に位置する直径7m、高さ1mの円墳で、東側で第2号古墳の周溝とまた西側で第4号古墳の周溝と重なり合います。幅1m、深さ0.6m程の周溝が1／2周ほどします。

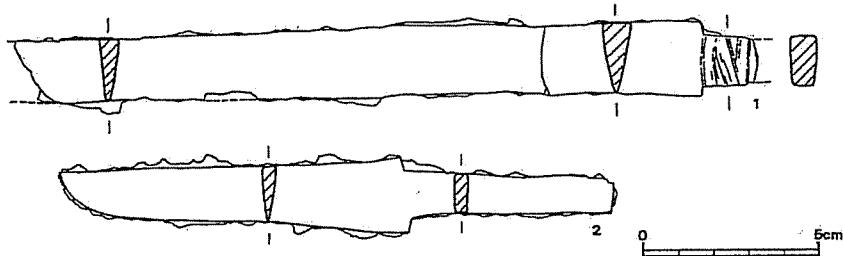
埋葬施設は発見できなかったのですが、墳裾と思われる場所から鉄製鍬先くわさきが出土しました。

**第4号古墳** 第3号古墳の西側に位置する直径9m、高さ1.5mの円墳で、東側で第3号古墳の周溝と重なり合います。幅1m、深さ1.1m程の周溝が墳丘の北側を中心に2／3周ほど巡ります。

古墳のほぼ中央部から長さ約2.5m×幅約0.9mの長方形の土坑（SK1）と南東方向に少し離れて長さ1.4m×幅0.5mの長方形の土坑（SK2）があります。周溝の底面から土師器高坏が出土しました。

**第5号古墳** 第4号古墳から西へ約7mの所にある直径9m、高さ1.5mの円墳です。幅2m、深さ1.3mの周溝が2／3巡ります。

古墳のほぼ中央部に粘土が集積していた部分があり、この周りから鉄刀が出土しました。また、周溝内から土師器壺と鉄器が出土しました。



第4図 町内出土の鉄器（高野町史より転載）

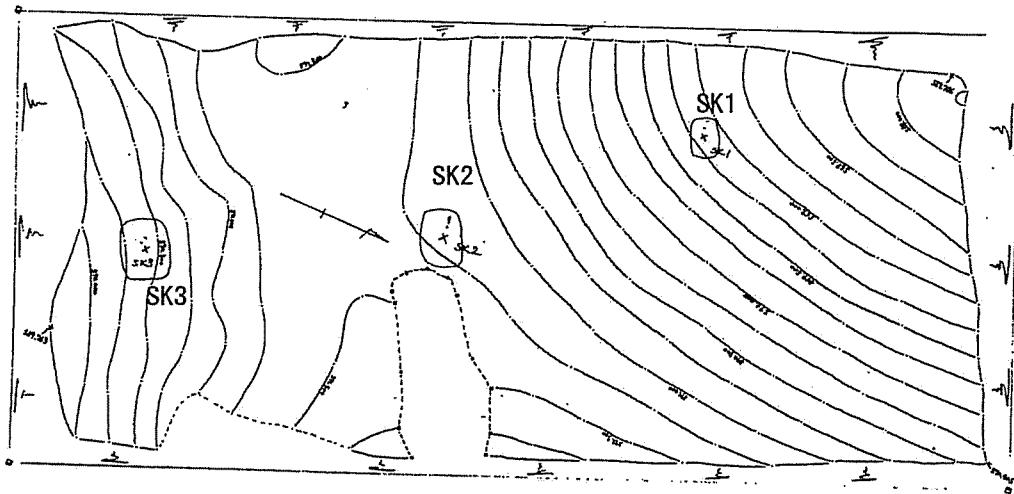
#### 第6号古墳

第1号古墳の南側の斜面に位置する直径7m、高さ0.5m程の円墳です。幅約1m、深さ0.7mの周溝が1／2程巡ります。斜面に位置していたため現状では古墳特有の盛り土の高まりがほとんど確認できません。

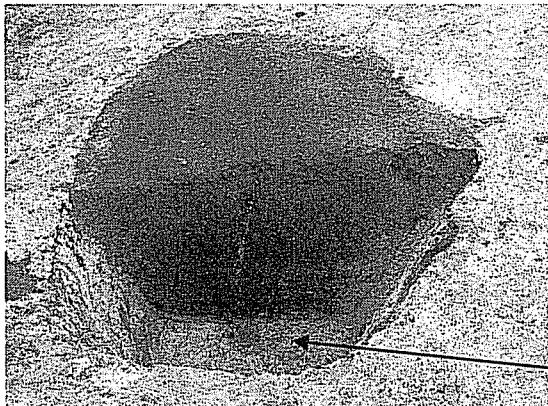
中央部に長方形の土坑が確認できました。この土坑の周囲から土師器丸底壺が出土しています。

## (2) 岡遺跡

岡東古墳群の東側約 65m の所に位置します。遺構は現表土から 1 ~ 2 m 掘り下げた黄褐色粘質土（通称きび土）上で、長方形の土坑を 3 基検出しました。尾根の狭まる部分を縦断するように配置されています。



第5図 岡遺跡遺構配置図 (1 : 200)



SK3 は長さ 1.6m × 幅 1.35m, 深さ 0.8m で、土坑の底面に直径 20cm の小さい穴があります。この小さな穴は逆茂木を配した穴と推定でき、落とし穴ではしばしば見かける施設です。

← SK3 断面 (底面中央部の黒い部分  
が逆茂木の穴)

## 4 まとめ

岡東第 1 ~ 6 号古墳の築造時期については、埋葬施設の構造や出土遺物の特徴などから概ね 5 世紀代に収まると考えられます。群構成を考えると、第 1 号古墳は西と南に分岐する尾根の結節点にあたります。そして、ここから西側の古墳群（第 2 ~ 5 号古墳）と南側の古墳群（第 6 号古墳 + 数基）に分かれます。このような状況を考慮するとこれらの 2 小群はともに第 1 号古墳に縁のある者の古墳であろうと推測できます。

岡遺跡は一定の距離を置いて落とし穴を配置しています。縄文時代の落とし穴ではこのような配置を持つ遺跡が発見されていますので、同時代の可能性が高いと思います。縄文時代の獵場だったのでしょう。